

◆世界ではいろいろな医療が

最近の医療について、日本や欧米で注目されているものが、統合医療(Integrative Medicine, IM)である。漢字をよくみると、総合ではなく統合となっているので注意されたい。ニュアンスとしては、いくつかを上手に組み合わせるといふ意味合いもあると考え、理解しやすいだろう。すなわち、私たちが長年にわたりお世話になっている西洋医療(Western Medicine, WM)に代替補完医療(Complementary and Alternative Medicine, CAM)を加え、すべてを統合させたものといえよう。

私はIMの四国支部のお世話を担当しており、毎年行われる研究会の論文集を発行してきた。このたびNo. 10が完成し、興味ある27論文を編集することができた。引き続き、全国大会が11月に開催されたので簡単に報告したい。



図1

◆テーマは患者中心

日本統合医療学会(IMJ)の第21回学術総会は、東京有明医療大学の川島朗教授が大会長を担当された。学会ホームページで大会長挨拶が動画で発信されていたのは興味深い(図1)。当日は話題にもなっている豊洲駅から大学に向かうことに。地元では「医療大学ですね」と親しまれており、入口には学術大会の大きなポスターが貼られていた(図2)。



図2

本学会は20年以上の歴史を有し、まさに時代のニーズもあり、発展しつつある。支部の数も増加しており、東北大学副学長を勤められた仁田新一理事長は、いままでの経緯と今後の展開について述べられた(図3)。かつて四国支部では、徳島大学の中屋豊教授が大会長を務められ、大成功に終わられたことがある。今後も、研究会活動や論文集の発行を継続していく予定である。



図3

◆音楽療法がメインの施術

このたび私の役目は、四国支部の報告と音楽療法を含む口演発表の座長であった。秀逸な研究として、大阪大学他による「ハイレゾリューション音源自然環境音によるストレス緩和効果」がみられた。私たちが通常音楽を聴くCDには、2万ヘルツまでの音だけが含まれる。しかし、自然界の森やジャングルなどでは、50万~100万ヘルツという高周波の成分が存在するのだ。人間の耳には聞こえなくとも、身体で感じられるかもしれない。ハイレゾ音の作用や効果、影響の研究が進んでいくことであろう。

ほかの話題は、オルゴール療法であった(図4)。歴史を振り返ると、音楽好きな人々の強い希望により作り出されたのがMusic Box(オルゴール)であった。わが国でも最近いろんなオルゴール館が設置され、音楽文化も広がってきているようだ。以上より、プライマリ・ケア医学を含む総合診療や、幅広い治療や施術を含む統合医療がわが国で理解され、発展していく将来に期待したい。



図4

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)